# 平成３０年度　学校評価報告書（目標設定・実施結果）

| | 視点 | ３年間の目標<br>（平成29年度策定） | １年間の目標 | 取　組　の　内　容 | | 校　内　評　価 | | 学校関係者評価<br>（３月９日実施） | 総合評価（３月13日実施） | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 具体的な方策 | 評価の観点 | 達成状況 | 課題・改善方策等 | | 成果と課題 | 改善方策等 |
| 1 | 教育課程<br>学習指導 | ○基礎学力の充実を図り、生徒が社会の中で自信を持って自らを生かそうとする姿勢を養う。<br>○普通科への学科改編により教育活動が充実したものとなるよう努める。<br>○生徒が主体的に学習し、成就感や達成感を味わうことのできる授業づくりに努める。 | ○学習内容の理解とその定着を図りながら、対話を重視した授業を行う。<br>○教育課程を見直し、生徒のニーズをしっかり把握するとともに興味や関心のもてる教育課程の編成に努める。<br>○わかる授業、興味・関心を抱ける授業をめざした授業を研究し、生徒が学びを通じて高められるよう努める。 | ○教科・グループ・年次が連携しながら授業及び補習や補講の内容の充実を図り、基礎学力の定着の向上を目指す。<br>○これまで蓄積したさまざまな教育資源やノウハウを普通科に生かせるように教育課程を検討する。<br>○多文化理解を深めていく教育活動を充実していく。<br>○生徒参加型の授業を組織的・計画的に進める。 | ○授業及び補習や補講の質や量が向上し、生徒の参加率も向上したか。<br>○生徒のニーズを踏まえた自由選択科目の設置が行えたか。<br>○国籍の異なる生徒同士の交流活動が取り組めたか。<br>○生徒が参加する場面を授業の中で設定できたか。 | ○補習には対象者の 65％程度が参加し、47％程度の生徒が意欲的に取り組んだ。<br>○総合学科で設置した科目が活かせる学校設定科目を設置した。<br>○多文化交流係を組織し日本語教室や文化祭等で外国籍の生徒と交流を行った。<br>○アクティブラーニングをテーマに授業研究会を行い、生徒主体の授業に向けた取組をした。 | ○生徒の学習意欲や補講への参加率を高めるために、授業や補習、補講の内容等を充実させていく必要がある。<br>○普通科となり生徒のニーズに微妙なずれが生じてきた。さらなる検討を進める。<br>○多文化交流係は１、２年次のみであるが活動の幅を広げ、学校全体の取組みにしていきたい。<br>○「主体的・対話的・深い学び」についてさらなる研究が必要である。 | ○日常的な補習やレポート等での振り返り、あるいは幾度となく繰り返すことにより基礎学力の定着を図る必要がある。<br>○普通科へ改編し本校独自の特色が出ていない。教育課程等で魅力をだす必要があるのではないか。<br>○外国籍の生徒は言葉の壁等はあるが支援体制が整っていることで生徒が主体的に進路を考えるようになった。今後も継続してほしい。 | ○学力並びに学習への意欲で個人差が広がり補習参加の割合を高めるとともに学力向上にむけた取組も必要である。<br>○総合学科で設置した科目を学校設定科目として設置し、継承することができた。<br>○学校説明会等でも外国籍の生徒が学校の取組みに率先して係わる機会を設けることができた。<br>○各教科・科目、そして学校全体での組織的な授業研究は継続して取り組んでいる。 | ○補習、補講の内容等を充実させるとともに上級学校への進学を意識した講習も充実させていく。<br>○検証の上、生徒のニーズに合った教育課程の編成をしていく。<br>○様々な機会を活用し、生徒同士の交流活動が活発になるように支援していく。<br>○アクティブラーニングの視点はわかる授業、興味関心の持てる授業の実現に欠かせない。目標を高め研究を進めていく。 |
| 2 | （幼児・児童・）<br>生徒指導・支援 | ○社会生活のルールと基本的な生活習慣を身につけ、それを守ろうとする態度を育成する。<br>○多様な課題を抱える生徒の状況を的確に把握し、家庭と連携して課題解決に役立てられる適切な支援を行う。<br>○交通安全教育を徹底して、生徒が安全に登下校できるよう努める。<br>○生徒の自己肯定感を培い、他を尊重し、思いやりのある豊かな心をもって他と協調する姿勢を養う。<br>○部活動を推進し、豊かな心を育成し、自主性と自立性を身につけさせる。 | ○正しい生活習慣をとる姿勢、社会のルールやマナーを守る意識や態度を育てる。<br>○生徒の生活状況を把握し、的確で迅速な支援を行う。<br>○自転車乗車についてマナーを守り、登下校の安全を守る。<br>○生徒が自信をもって学校生活を送り、他者との確かな関係が築けるよう努める。いじめについて組織的かつ迅速に取り組み、未然防止に努める。<br>○部活動により社会のなかで自らを生かし高めることができるよう努める。 | ○服装・頭髪・遅刻の各指導を通して、自ら正すことができるようになるまで指導を継続的・組織的に行う。<br>○教育相談の専門機関と連携を行う組織を構築し、迅速で継続的な支援を行う。<br>○定期的な自転車乗車指導等を行い、マナー向上を図る。<br>○日常の支援活動を通じて、他者との安定した関係を構築できるよう努める。また、教職員間の情報交換や各種組織の活動を通じていじめに組織的かつ迅速に取り組み、未然防止に努める。<br>○部活動紹介等を積極的に行い、部活動加入率を増加させる。 | ○服装・頭髪・遅刻に対する意識が向上し指導される生徒は減少したか。<br>○教育相談の専門機関と連携を図りながら必要に応じて会議が開催され、その情報を職員全体で共有できたか。<br>○生徒の自転車乗車マナーが向上し、交通安全への意識が高まったか。<br>○生徒が他者との確かな関係を築くことができたか。いじめについて組織的かつ迅速に取り組み、いじめを未然に防止することができたか。<br>○生徒一人ひとりが積極的に行事や部活動に参加し活動できたか。 | ○指導の対象となる生徒は一定程度存在するが、その都度改善がなされた。<br>○関係諸機関や職員間で情報を共有し、ケース会議も８回開催し、きめ細かな支援を行うことができた。<br>○地域から苦情もあり、マナー等の意識向上が十分ではない。<br>○定期的に学校生活アンケートを実施し、いじめに対して常にアンテナをはり、事態が深刻化する前に対応した。<br>○新入生オリエンテーションを工夫し、部活動に興味・関心を抱かせた。 | ○通年での指導をさらに徹底していきたい。<br>○職員間の情報共有・意見交換をさらに密に行い、生徒の状況把握漏れをなくすよう努める。<br>○登下校指導や日常の生活指導等を通じて、マナー意識向上に努める。<br>○いじめに対して常にアンテナを立てて未然に防ぐとともに、生徒の他者尊重の心の涵養に努める。<br>○部活の加入率はそれほど増加していない。魅力ある部活動づくりをしていく必要がある。 | ○交通事故につながっている点からも重点的に指導の徹底を図る必要がある。 | ○日常的な指導のほかに指導強化週間を設けることで、服装、頭髪、遅刻等に対する効果は上がった。<br>○ケース会議により情報の共有、課題解決につながった。<br>○交通安全指導については、マナー意識が高まっているとは言えない。<br>○学校生活に関するアンケートを通じて早期発見に努め、いじめ等が絶対あってはならないことを徹底できた。<br>○部活動の充実とともに、加入率の向上に努めてはいるが、現状は高くない。 | ○通年での指導を徹底し、生徒自らの意識の醸成を図って落ち着いた学習環境を整える。<br>○情報共有・意見交換をさらに密に行い、生徒の状況把握漏れをなくし、きめ細かな支援を引き続き行う。<br>○教職員全体で重点的に指導の徹底を図る必要がある。<br>○日ごろの観察のほかアンケート等でいじめの未然防止に努めるとともに自らを大切にし他者を思いやる意識を培っていく。<br>○よりよい人間関係を構築するうえで、部活動を充実させる検討を進めていく。 |

| | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 | 進路指導・支援 | ○社会の中で積極的に自らを生かそうとする姿勢とコミュニケーション能力を育成する。<br>○自らの基礎学力を伸ばす努力を大切にし、自分の夢を描く力を身につけ、卒業時の進路について主体的に判断できる力を涵養する。 | ○コミュニケーション能力を育成し、自己理解を深め、社会の中で自らを積極的に生かそうとする姿勢を養う。<br>○これまでのノウハウを引き継ぎながら普通科としてのキャリア教育を確立し、生徒が卒業時の進路について支援するとともに、主体的に判断できる力を育成する。 | ○校内外の授業や体験学習を通じて、コミュニケーションを大切にし、自己理解を深め、新しい自分を発見し自己実現の構築を図る。<br>○将来の職業について考える力を育て、自己の力を生かせる進路の発見ができるよう導く。<br>○到達度テストや基礎学力診断テストを実施し、資質能力の定着を図り、進路実現に向けて主体的に判断できるよう促す。 | ○インターンシップ・校外講座やガイダンス等のキャリア教育の機会を提供することができたか。<br>○勤労感をもって主体的に進学・就職活動を行う生徒が増加したか。<br>○進路ガイダンス、面談を通じて、資質能力の大切さと進路実現に向けて主体的な活動ができるよう進路支援できたか。 | ○夏季連携講座12名、ボランティアに２名が参加した。<br>○企業及び分野別説明会等から主体的に進学・就職活動を始める生徒が増えた。<br>○外部業者を利用したキャリア教育を導入し、生徒の意識を高めた。到達度テスト基礎学力テストを実施した。 | ○校内外での講座やキャリアアップを目指す講座案内を充実させ、コミュニケーション能力向上を図る。<br>○引き続き、キャリア学習や外部教育力を活用し、進路活動につながる意識づけを行う。<br>○担任、年次、グループ全体の協力体制を図る。到達度テスト、基礎学力診断テストの振り返りを行い今後の進路選択の礎にしていく。 | ○本校に限らず、オンライン学習は組織的に取り入れないと活用は厳しい。 | ○これまでのさまざまな取組は有効であった。<br>○外部業者を利用して基礎学力を測ることで生徒に自らを知り、必要な力を理解させることができた。 | ○普通科としても必要な資質・能力の向上を図り、キャリア形成していく必要がある<br>○必要な知識や支援の在り方を探り、生徒一人ひとりの支援につなげるために職員の研修を充実させる。学校全体のキャリア構想を明確にし、個々の教育活動の充実につなげる必要がある。 |
| 4 | 地域等との協働 | ○地域の教育資源が最大限活用できるよう努め、教育活動全体を通じて体験活動を重視しながら、キャリア形成に努める。<br>○地域や保護者との連携をさらに進め、地域に開かれ信頼される学校づくりを進める。 | ○生徒のキャリア形成を進めるために、地域の教育力を積極的に活用する。<br>○学校行事や部活動等を通して地域に密着した行事参加により、地域貢献に努める。 | ○地域での職業体験を継承し共に連携を深め社会に貢献できる人材を育成していく。<br>○地域の自治会や市区との対話を重視し、学校が地域とともに発展できるように努める。<br>○ＰＴＡの活動を活発にし、学校行事等で保護者の参加ならびにサポートの体制を充実させる。 | ○総合的な学習の時間等で職業体験を通しながらキャリア形成が図れたか。<br>○学校行事や部活動を通して地域との関わり、連携を深めることができたか。<br>○一年をとおし、生徒に関わるＰＴＡ活動を実践することができたか。 | ○事業所訪問等で積極的に地域の教育力を活用した。<br>○文化祭での連携は実現できなかったが部活動では近隣と連携を図れた。<br>○体育祭や十校連スポーツ大会等で多くの方からサポートを得られた。 | ○地域や外部の教育資源の活用が図りやすいように校内の整備を進める。<br>○学校の施設等を生かし、地域の方が来校できるイベントを考える必要がある。<br>○他の取組でも多くの方から協力を得られるようにメール配信や役員会・運営委員会等で呼びかける。 | ○地域の教育力を活用してきたことは、課題研究全体発表会に集大成として表れていた。今後も継続してほしい。<br>○ＰＴＡの校内支援体制は整ったが、今後は外部の情報も取り入れ、活動を活性化させていく。 | ○福祉の授業や総合的な学習の時間等、部活動における施設等への交流訪問など行うことができた。<br>○ＰＴＡの協力・連携体制は整ったが生徒を通じた配布通知が保護者に届かないことは課題である。 | ○地域との協働の視点を重視し、これまで以上に新たなとりくみを積極的に進めていく。<br>○メールやＨＰを活用しより多くの協力を得られるように努める。 |
| 5 | 学校管理<br>学校運営 | ○本校の教育活動を積極的に発信し、広報活動を推進し、地域や生徒・保護者等広く教育活動の理解が得られるよう努める。<br>○普通科への学科改編による必要な整備を行うとともに、中学生等へ周知し、新たな学校の魅力の理解が得られるよう努める。<br>○生徒の防災意識を高め、命を守り大切にする行動がとれるように指導するとともに、地域社会において、協調して貢献しようとする生徒を育てる。<br>○事故について、未然防止に努めるとともに、起きた際には、最善の対応を尽くす。 | ○本校の教育活動について積極的に情報を提供し、地域や生徒・保護者等に理解が得られるよう努める。<br>○学校の魅力や特色づくりに努め、中学生や保護者に対して、わかりやすく浸透させる。<br>○生徒の防災意識を高めるとともに、地域の防災活動に協力するなどにより、地域社会において必要な行動をとれるよう努める。<br>○日頃からの意識啓発や風通しのよい職場環境づくりを通じて事故の未然防止に努める。 | ○本校のさまざまな取組みをＨＰ等にこまめに掲載し、迅速かつ適切な発信を心がける。<br>○学校案内や学校説明会の内容を見直し、わかりやすい広報活動を展開する。<br>○避難訓練（火災）とシェイクアウト訓練（地震）を実施する。<br>○職員みずから事故・不祥事防止に取り組む体制を構築する。 | ○本校の取組みに関する情報を迅速かつ適切に発信できたか。<br>○本校への理解を深めることができたか。<br>○防災訓練にとどまらず、何をなすべきかを判断し、自ら行動できるよう、真剣に取り組ませることができたか。<br>○事故・不祥事の事例を職員が自分のこととして意識できたか。 | ○月に平均３回程度、ＨＰを更新し、学校行事等の新しい情報を、発信することができた。<br>○学校説明会で、生徒を前面に出した広報活動を行った。97%の方が説明会の内容を理解できたと回答した。<br>○５月に火災、９月に地震を想定した防災訓練から生徒の防災意識を高めることができた。<br>○会計研修会の実施や、新規マニュアル作成により私費会計の理解をより深めることができた。 | ○各年次・グループ・部活動顧問にＨＰの活用を推進していく必要がある。<br>○説明会へ継続して参加する中学生もいるので、内容もその都度、精選していく必要がある。<br>○防災訓練において一部の生徒の私語が目立ち、真剣さに欠けた場面もあり、さらに入念な指導も必要である。<br>○来年度も引き続き、私費会計処理の認識を深め、事故防止に努めていく必要がある。 | ○学校案内は内容が改善されており、中学生から見て魅力的な内容と考えられる。広報活動をさらに充実させ、多くの中学生の目に触れるようにしてほしい。 | ○本校の情報発信としてＨＰを重視し、更新のみでなく、県の方針に基づき全体の刷新を来年度にかけて行っている。<br>○学校案内は学校の活動がわかるように工夫した。学校説明会を生徒の発表の場として活用したことは中学生や保護者の理解が得られた。<br>○事故防止の取組は対象が会計や公務外非行、交通事故など多岐に渡っている。 | ○ＨＰは基本的には全職員が更新できる状況となる。更新の頻度を高め、情報の鮮度を高めていく。<br>○会場や開催時期の検討をし、説明会の内容もより進化させていく。<br>○防災意識を高め、自らの身を守り、地域の人々と共に必要な行動をとれるよう取組を進める。<br>○学校全体で事故を他人のことと思わず、自らの戒めとする意識を高めていく。 |